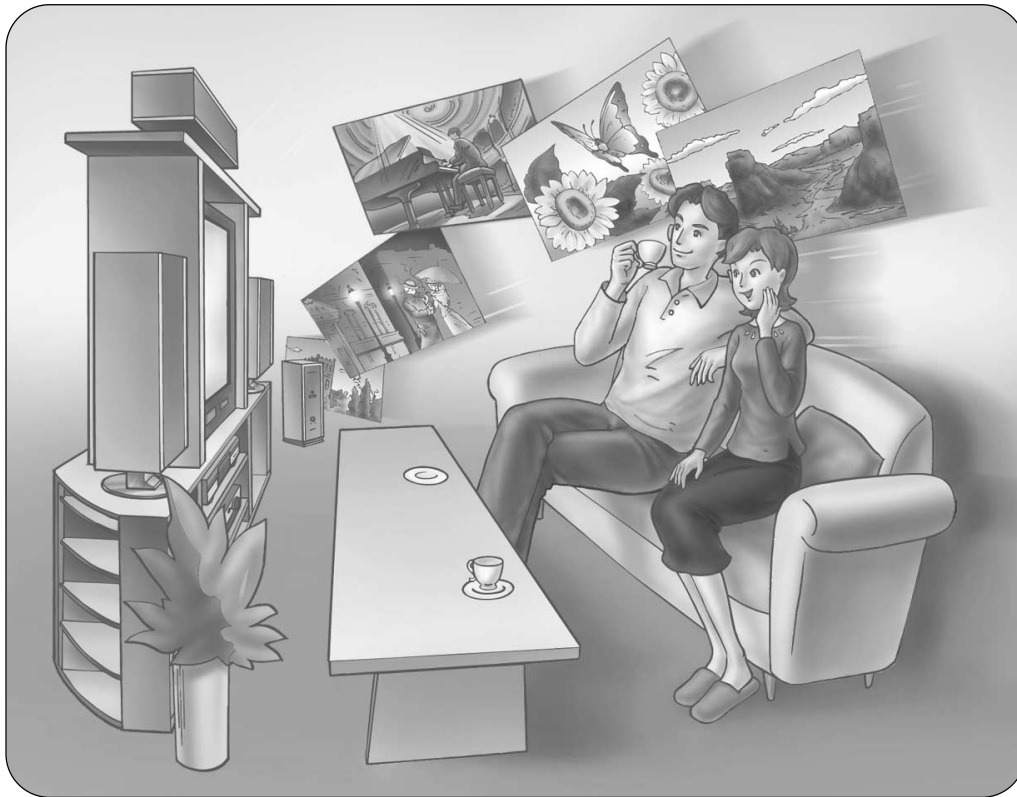
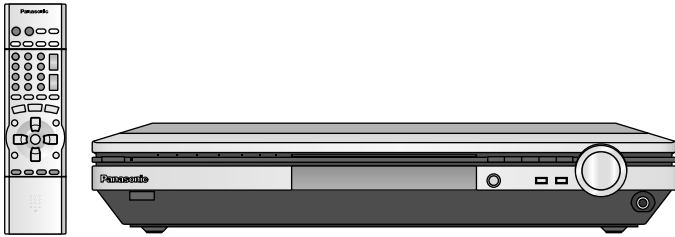


AV コントロールアンプ 取扱説明書

品番 SA-XR25



このたびは、AV コントロールアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと保存し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

確認	付属品の確認/安全上のご注意.....	2
	各部のなまえ	4
準備	① リモコン	6
	② スピーカーの接続.....	6
	③ 各機器の接続	8
	④ デジタル入力端子の設定	11
	⑤ スピーカーの設定	12
楽しむ	映画や音楽を楽しむ	14
	ドルビープロロジック II の調整/NEO:6 の調整/ SFC の調整/PCM FIX と DTS FIX	
	ラジオを聞く	18
	音質・音量の調整.....	20
	一時的に音を消す/サブウーハーレベルの調整/ 小音量でも聞きやすくする/アッテネーターの切り換え/ 音質と音量バランスの調整	
便利な機能	スリープタイマー/ヘッドホン/ 表示窓を暗くし、ライトを消す	21
	リモコンでテレビや DVD などを操作する....	22
	録音・録画/屋外アンテナの接続/主な仕様	24
参考	故障かな !?	25
	Q&A (よくあるご質問) /工場出荷時の状態に戻すには/保証とアフターサービス ..	26
	さくいん/お手入れ.....	裏表紙

確認
と
準備

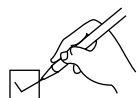
楽しむ

ご参考

本機はデジタルアンプです

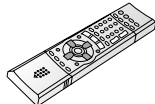
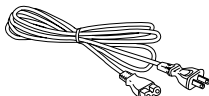
- 本機ではデジタル信号を、入力から最終増幅回路に至るまで完全にデジタル処理します。そのため、周波数に依存しない広帯域の再生を実現しています。また、VGDA（バリアブル・ゲイン・デジタル・アンプ）技術により実際に使用される音量域での信号対雑音比（S/N比）を改善し、ノイズの少ない、クリアで原音に近い再生を可能にしています。
- デジタルアンプは無駄な熱損失が少ない（エネルギー効率 90% 以上）地球環境に配慮したアンプです。

付属品の確認

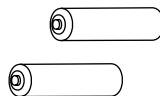
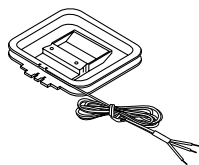


接続の前に、まず付属品を確認してください。

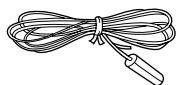
- 電源コード 1 本 (RJA0050-K)
- リモコン 1 コ (EUR7622040)



- AM ループアンテナ 1 本 (RSA0037)
- リモコン用単 3 形乾電池 ... 2 コ



- FM 簡易型アンテナ 1 本 (RSA0007-L)



お願い

付属の電源コードは、本機専用です。他の機器に使用しないでください。

お願い

付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。かっこ () 内は買い替え時の品番です。

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

- 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

警告 この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

電源コードについて

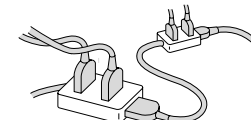
電源コード・プラグを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。



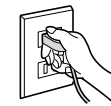
- 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない



- たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



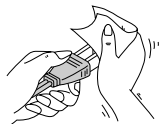
- 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

警告

注意

電源コードについて

電源プラグのほこり等は定期的にとる



- プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり火災の原因になります。電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



- 感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ご使用について

機器内部に金属物を入れたり、水をかけたり濡らしたりしない



- ショートや発熱により火災や感電の原因になります。
- 機器の上に液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

分解、改造しない



分解禁止

- 内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

もし異常が起きたら

異常があったときは電源プラグを抜く



電源プラグを抜く

- 機器内部に金属や水、異物が入ったとき
- 煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき

- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

雷について

雷が鳴ったら、アンテナ線や機器、電源プラグに触れない



接触禁止



- 感電の恐れがあります。

注意

設置・接続について

放熱を妨げない



- 内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になります。

不安定な場所に設置しない

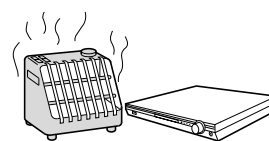


- 上に大きなもの、重いものを載せない

- 機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

設置・接続について

異常に温度が高くなる場所に置かない



- 機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない



- 電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

屋外アンテナの設置・工事は自分でしない



- 強風でアンテナが倒れた場合に、感電やけがの原因になることがあります。
- 設置・工事は販売店にご相談ください。

ご使用について

コードを接続した状態で移動しない



- 接続した状態で移動させようとする、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。
- また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

ご使用について

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない



- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

電池について

電池は正しく取り扱う



- ⊕と⊖は正しく入れる
- 長期間使用しないときは、取り出しておく

電池は誤った使い方をしない



- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使用しない
- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水、火の中へ入れたりしない
- ネックレスなどの金属物といっしょにしない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない
- 被覆のはがれた電池は使用しない

- 取り扱いを誤ると、電池の液もれにより、火災や周囲汚損の原因になります。
- 万一液もれが起きたら、販売店にご相談ください。
- 液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

各部のなまえ

本体

マルチデコーダーランプ (⇒ 14 ページ)

入力ソースの信号やデコード形式により次のランプが点灯します。

AAC : AAC ソース (BS デジタル放送など) を再生しているとき

■ DIGITAL EX : ドルビーデジタルサラウンド EX ソースを再生しているとき

■ DIGITAL : ドルビーデジタルソースを再生しているとき

■ PL II : ドルビープロロジック II デコーダーを使用しているとき

DTS-ES : DTS-ES のディスクリットやマトリックスソースを再生しているとき

DTS : DTS ソースを再生しているとき

NEO:6 : NEO:6 マトリックスデコーダーを使用しているとき

パワー
POWER 〇/I (電源) ボタン
/φ (通電) ランプ
(⇒ 11 ページ)

リモコン受光部
(⇒ 6 ページ)

表示窓 (⇒ 下記)

インプット
INPUT SELECTOR (入力切り換え) ボタン (⇒ 14 ページ)

エフエムモード
FM MODE (FM 受信モード選択)
ボタン (⇒ 18 ページ)

メモリー
MEMORY (記憶) ボタン
(⇒ 19 ページ)

プリセット
PRESET (ラジオチャンネル呼び出し)
ボタン (⇒ 19 ページ)

チューン
TUNE (選局) ボタン
(⇒ 18 ページ)

ボリューム
VOLUME (音量調整) つまみ
(⇒ 14 ページ)

ホーンズ
PHONES (ヘッドホン) 端子
(⇒ 21 ページ)

バンド
BAND (ラジオバンド切換) ボタン
(⇒ 18 ページ)

エンハンスド サラウンド
ENHANCED SURROUND ボタン
(⇒ 15 ページ)

表示窓

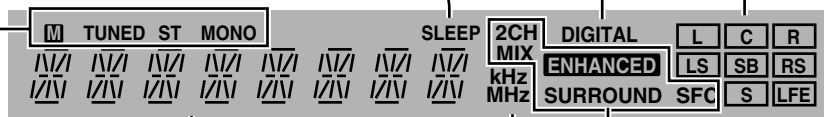
デジタル入力表示

スリープタイマー表示

チューニング状態表示

共通の表示部

周波数単位表示



プログラムフォーマット表示

デジタル入力信号に含まれるチャンネルが表示されます。入力がアナログのときは表示されません。

L : フロントチャンネル (左)

C : センターチャンネル

R : フロントチャンネル (右)

LS : サラウンドチャンネル (左)

SB : サラウンドバックチャンネル

RS : サラウンドチャンネル (右)

S : サラウンドチャンネルがモノラルの場合に表示

LFE : 重低音効果チャンネル

サウンドモード表示

リモコン

AV システム (接続機器) 電源ボタン
(➡ 22、23 ページ)

アンプ (本体) 電源ボタン
(➡ 14 ページ)

数字ボタン (➡ 18、22 ページ)

ダイレクトチューニング (直接選局) ボタン
(➡ 18 ページ)

DVD プレーヤー操作ボタン
(➡ 22 ページ)

音声切換 (AAC 音声モード切り換え) ボタン
(➡ 14 ページ)

テレビ入力切換ボタン (➡ 22 ページ)

テスト (テスト信号出力) ボタン (➡ 13 ページ)

入力モード (デジタル、アナログ切り換え) ボタン
(➡ 14 ページ)

スリープ (スリープタイマー設定) ボタン
(➡ 21 ページ)

トーン/バランス (音質、音量バランス選択) ボタン
(➡ 21 ページ)

入力ソース切り換えボタン
(➡ 14 ページ)

チャンネル (チャンネル選局) ボタン
(➡ 19、22 ページ)

音量調整ボタン
(➡ 13、14 ページ)

テープ、ディスク操作ボタン
テレビ音量調整ボタン
(➡ 22、23 ページ)

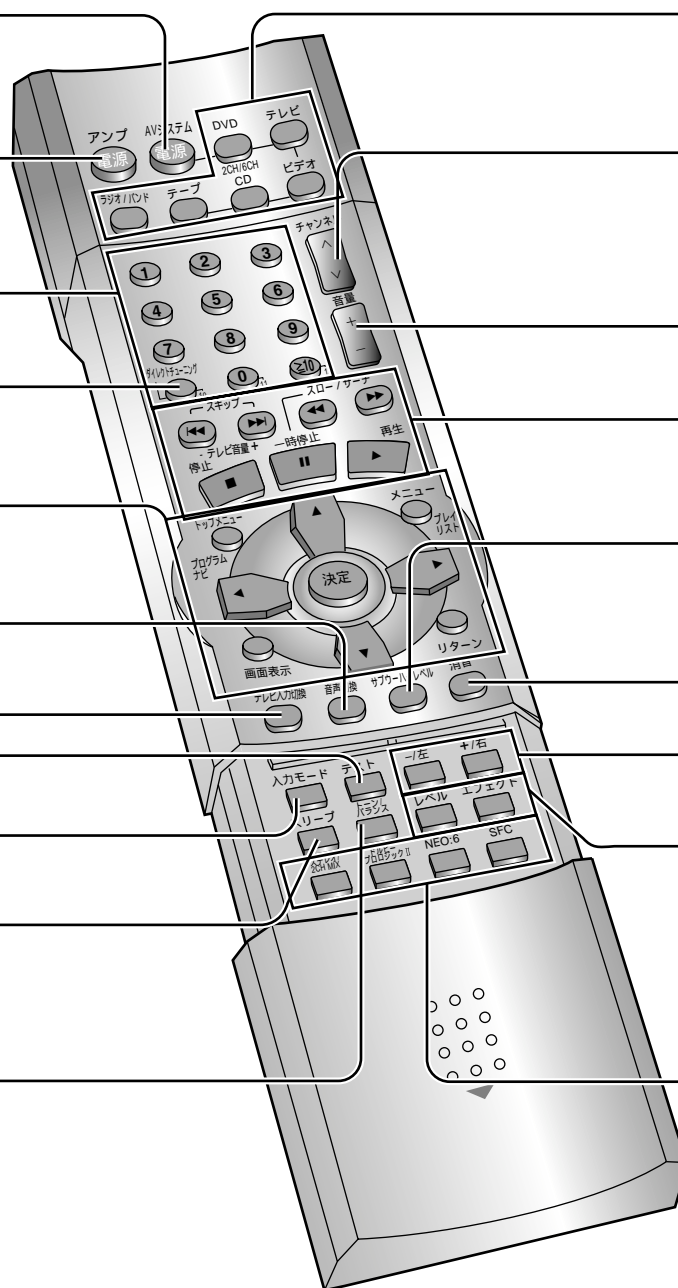
サブウーハーレベル (低音調整)
ボタン (➡ 20 ページ)

消音ボタン (➡ 20 ページ)

各種調整ボタン
(➡ 13、16、21 ページ)

レベル (スピーカー出力レベル)、
エフェクト (サラウンド効果調整)
ボタン
(➡ 13、16、17 ページ)

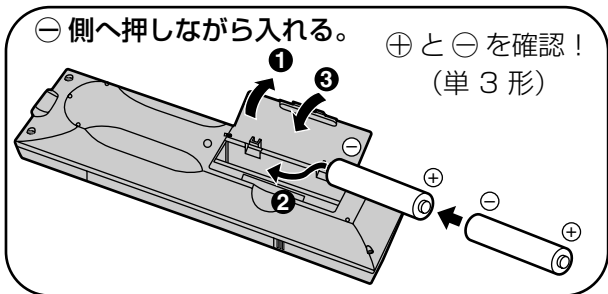
サウンドモード選択ボタン
(➡ 15 ページ)



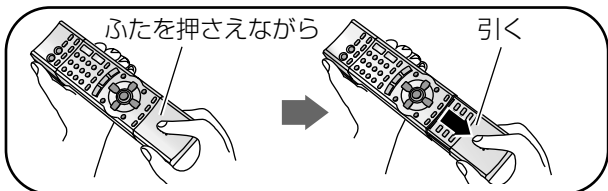
準備 1

リモコン

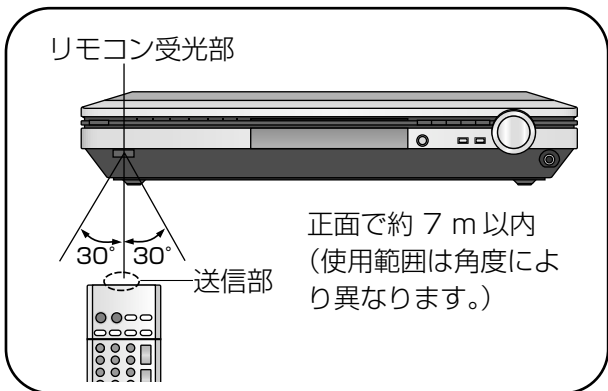
乾電池の入れかた



ふたの開きかた



リモコンの使いかた



■使用上のお願い

- 受光部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受光部とリモコンの先端のほこりに注意。

■本体をラックに入れて使用するとき

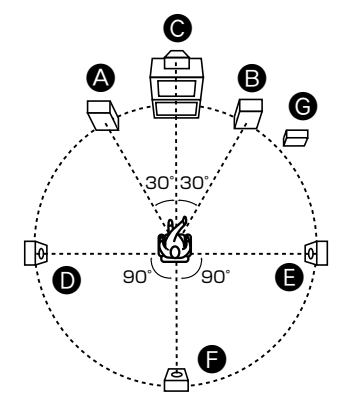
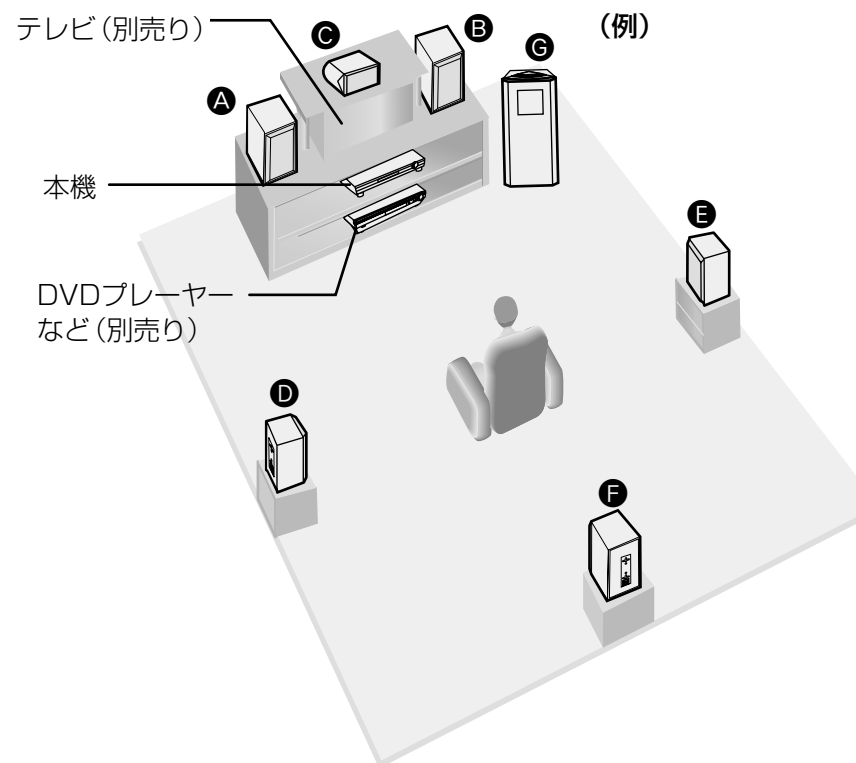
ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

準備 2

スピーカーの接続

スピーカーの説明書もご覧ください。

設置



視聴位置からフロント/センター/サラウンド/サラウンドバックの各スピーカーを同じ距離に設置するのが理想です。なお、角度はあくまでも目安です。
距離の設定(→ 13 ページ)

よりリアルな音場を作り出すため、サラウンドバックスピーカーに対応しています。
(→ 15 ページ **ENHANCED SURROUND モード**)
エンハンストサラウンド
● ドルビーデジタルサラウンド EX や DTS-ES のソースを楽しむとき
● 5.1 チャンネルにサラウンドバックスピーカーの効果を加えたいとき

フロントスピーカー (A 左 B 右 : 別売り)

テレビの左右に置き、視聴位置で (実際に椅子に座るなどして) 映像と音声の動きが合うように、位置や角度を調整してください。

センタースピーカー (C : 別売り)

テレビの真上か真下に置き、視聴位置での耳の高さへまっすぐに向けてください。

サラウンドスピーカー (D 左 E 右 : 別売り)

視聴位置の左右 (横またはやや後ろ) に、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

サラウンドバックスピーカー (F : 別売り)

視聴位置の後ろに、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

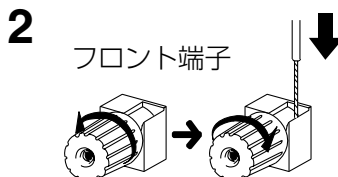
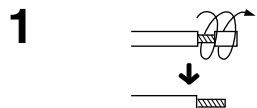
サブウーハー (G : 別売り)

テレビから大きく離れない程度の適当な位置に置いてください。
置く場所によって低域の周波数特性が変化しますので色々試してみてください。例えば、部屋の隅に置くと少し不自然な感じにはなりますが音量が増加します。

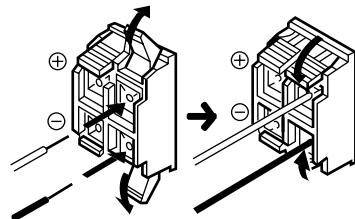
接続

スピーカーコードの
接続方法

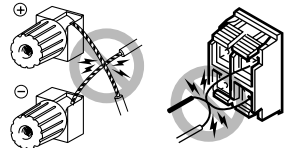
スピーカーコード(別売り)



その他の端子



- L(左)、R(右)と+、-をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。
- スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。



スピーカーインピーダンス: 6 ~ 16 Ω

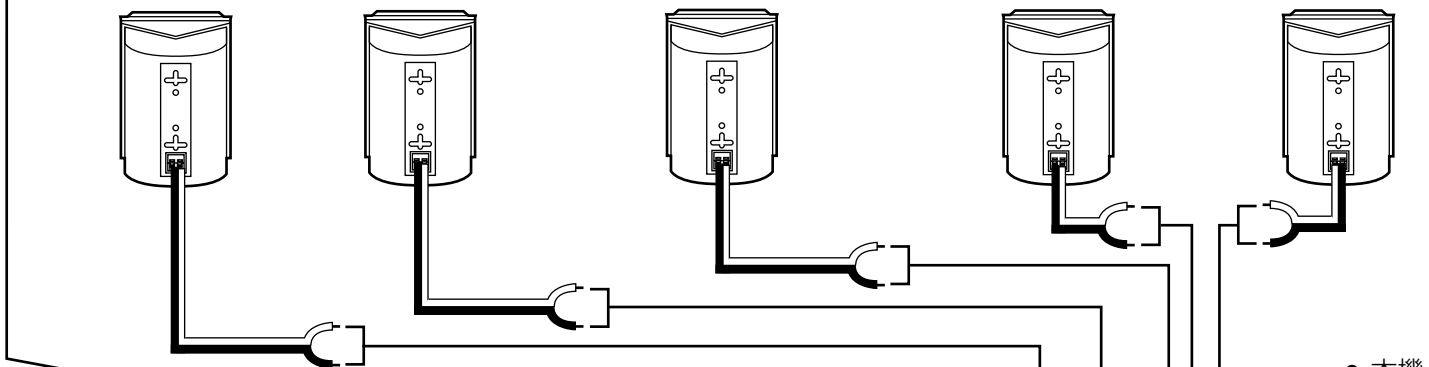
右フロント
スピーカー(別売り)

左フロント
スピーカー(別売り)

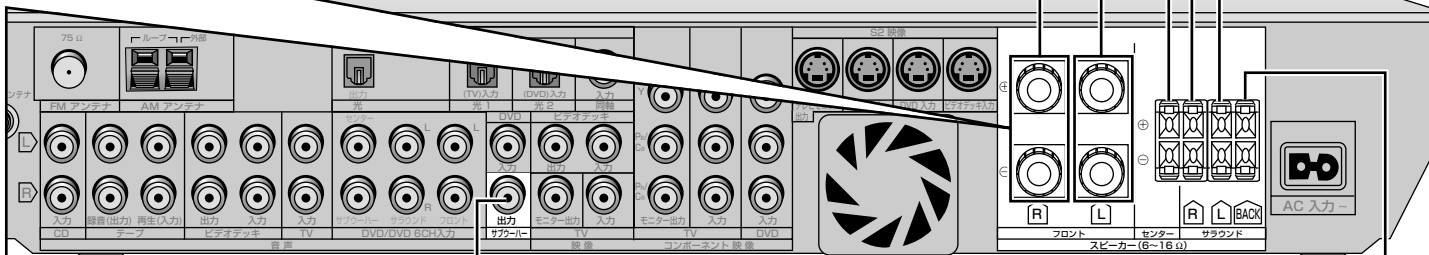
センタースピーカー
(別売り)

右サラウンドスピーカー
(別売り)

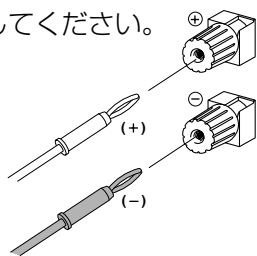
左サラウンドスピーカー
(別売り)



● 本機



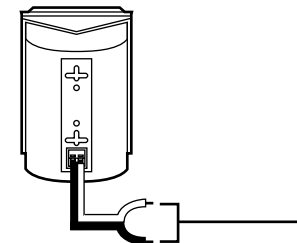
バナナプラグ(市販)を接続するときは
スピーカー端子を右に回してしっかり締めつけ、端子の穴にプラグを挿入してください。



モノラルピンコード
(別売り)

アクティブ(アンプ内蔵)
サブウーハー (別売り)

サラウンドバックスピーカー
(別売り)



確認
と
準備

スピーカーの接続

お知らせ

- 接続するときには、各機器の電源を切ってください。
- 入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
- デジタル入力の割り当ては変更できません。(➡ 11 ページ)
- 本機と各機器の接続には下記のコード・ケーブル類を使用します。各接続ページをお読みの上、必要に応じて準備してください。

ステレオピンコード(別売り)

[品番: RP-CAP3G10(1 m) など]

(L/左) 白
(R/右) 赤

ビデオコード(別売り)

[品番: RP-CVPOG10(1 m) など]



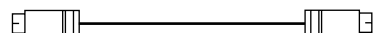
コンポーネント映像コード(別売り)

[品番: RP-CVPCG10(1 m) など]



S映像コード(別売り)

[品番: RP-CVSOG10(1 m) など]



光デジタルケーブル(別売り)

[品番: RP-CA2010A(1 m) など]

角型

同軸デジタルケーブル(市販)

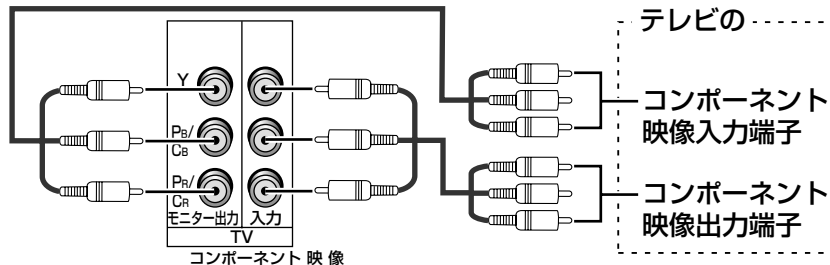


別売り品の品番は、2003年2月現在のものです。

品番は変更されることがあります。

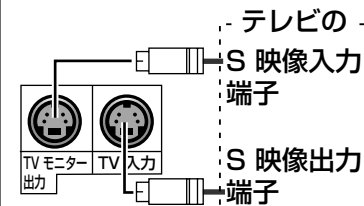
テレビの接続

コンポーネント映像コードを使って接続する場合

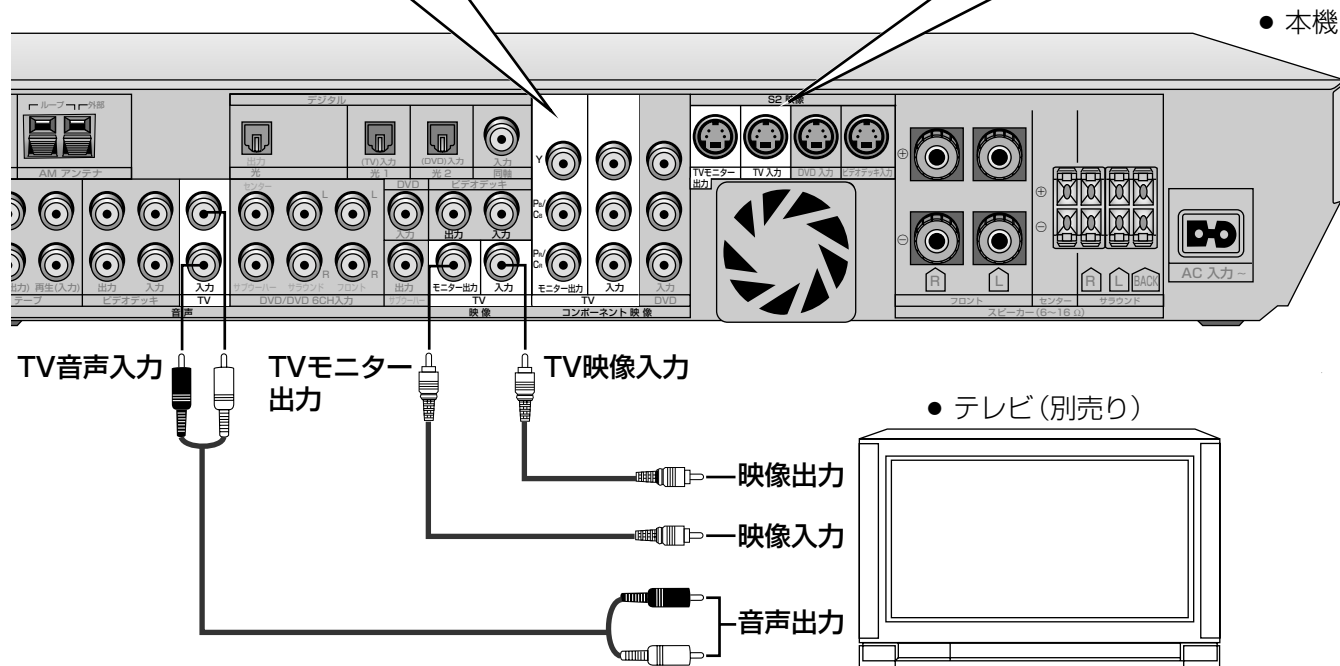


- この接続を行わないときは、下図の映像入出力の接続を行ってください。
- TV音声入力も接続してください。(下図参照)
- Y、Pb、Pr または Y、Cb、Cr のコンポーネント映像端子と接続することができます。

S映像コードを使って接続する場合



- この接続を行わないときは、下図の映像入出力の接続を行ってください。
- TV音声入力も接続してください。

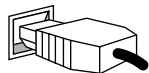


● 本機

● テレビ(別売り)

DVD プレーヤーの接続

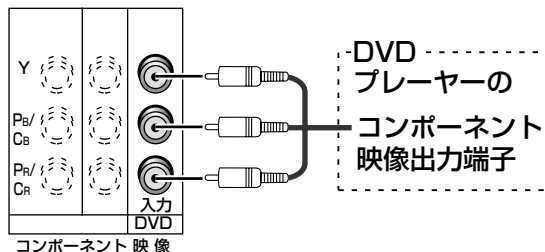
光デジタルケーブルの接続方法



形状を合わせて差し込む

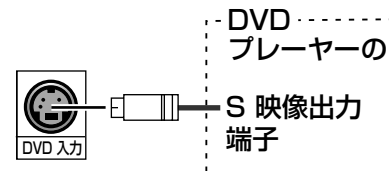
- ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

コンポーネント映像コードを使って接続する場合

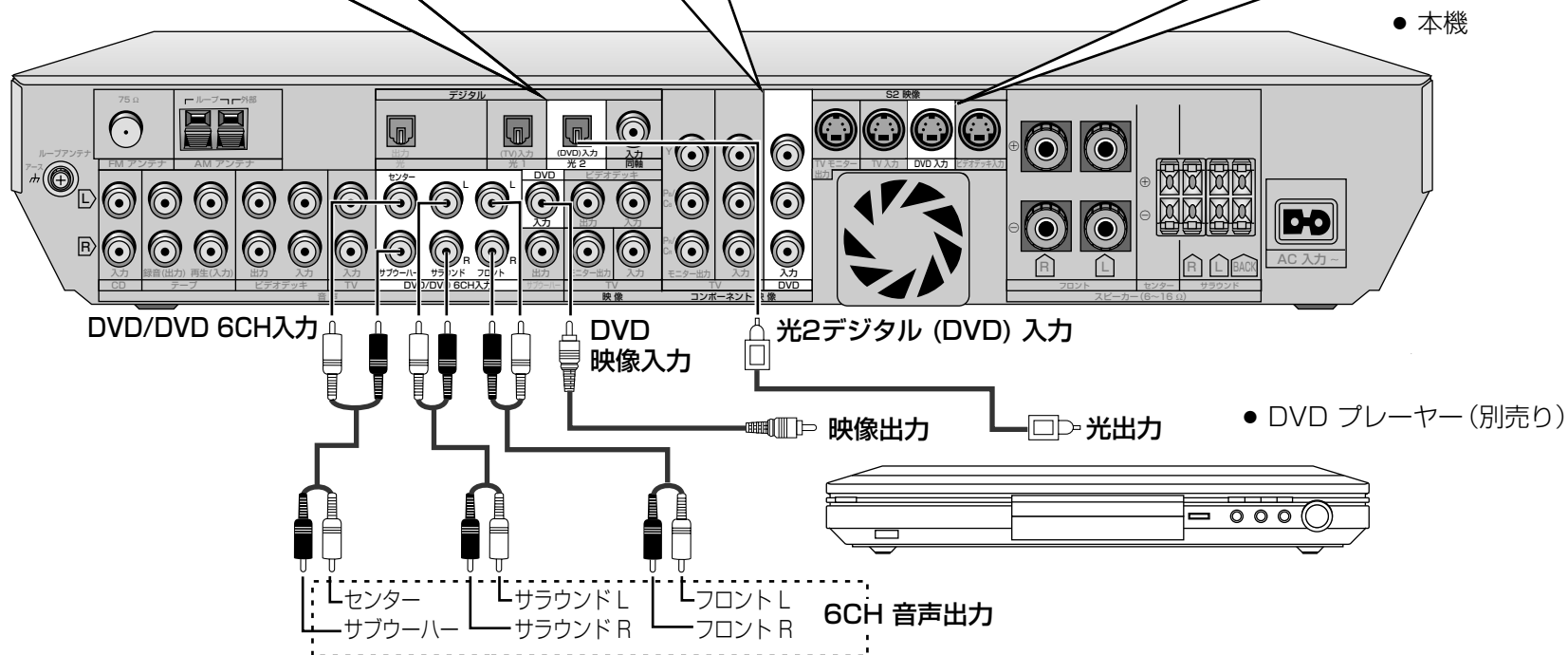


- この接続を行わないときは、下図の映像入力の接続を行ってください。
- 音声 (DVD/DVD 6CH 入力や光2デジタル入力) も接続してください。(下図参照)

S 映像コードを使って接続する場合

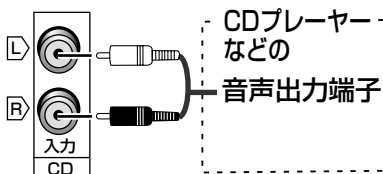


- この接続を行わないときは、下図の映像入力の接続を行ってください。
- 音声 (DVD/DVD 6CH 入力や光2デジタル入力) も接続してください。(下図参照)



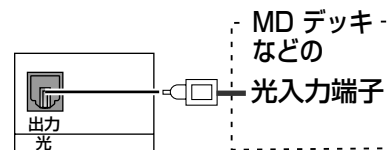
CD プレーヤーなどの接続

CD プレーヤー(別売り)などを接続できます。



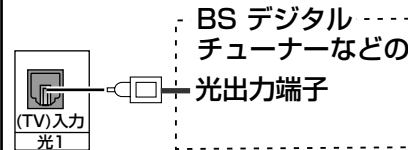
MD デッキなどの接続 (録音用)

MD デッキ(別売り)などのデジタル録音機器を接続できます。録音については 24 ページをご覧ください。



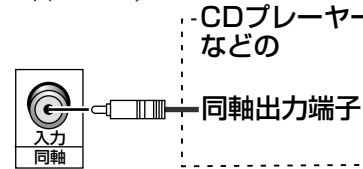
BS チューナーなどの接続

BS デジタルチューナー(別売り)や CS チューナー(別売り)などを接続できます。

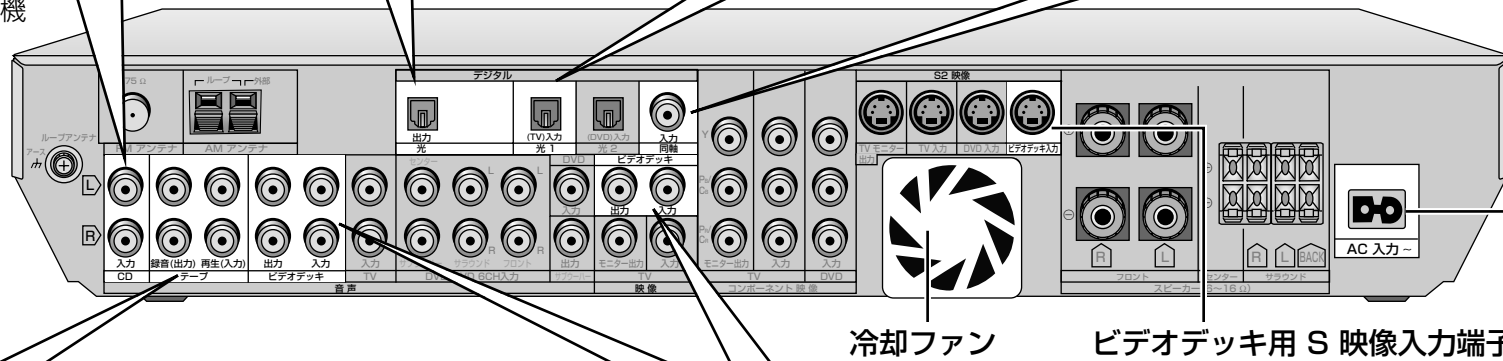


同軸出力付き機器の接続

同軸出力付きの CD プレーヤー(市販)などを接続できます。必要に応じて、デジタル入力端子の設定を行ってください。(→ 右ページ)

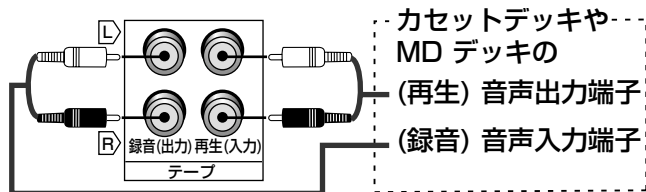


● 本機



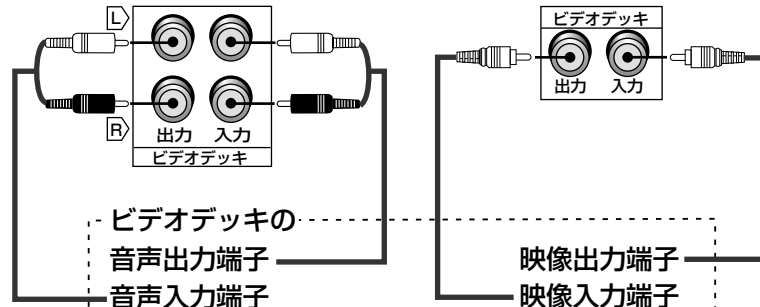
カセットデッキなどの接続

カセットデッキ(別売り)や MD デッキ(別売り)を接続できます。録音については 24 ページをご覧ください。



ビデオデッキの接続

ビデオデッキ(別売り)を接続できます。録音・録画については 24 ページをご覧ください。



- ビデオデッキ用 S 映像入力端子に、S 映像コードで接続することもできます。(映像入力のみ)

ご家庭の電源コンセント (AC 100 V、50/60 Hz)

お知らせ

アナログ音声入力端子 (CD入力、テープ入力など) にイコライザー内蔵のアナログプレーヤー (当社製 SL-J8 : 別売り) を接続する場合、プレーヤーの PHONO OUT/LINE OUT を "LINE OUT" に切り換えてください。

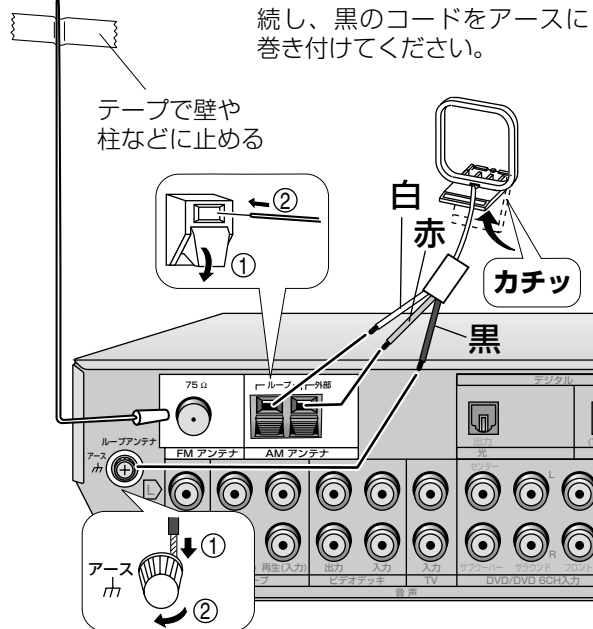
デジタル入力端子の設定

準備 4₅

アンテナの接続

FM 簡易型アンテナ (付属)

AM ループアンテナ (付属)
白のコードを左、赤のコードを右の AM アンテナ端子に接続し、黒のコードをアースに巻き付けてください。

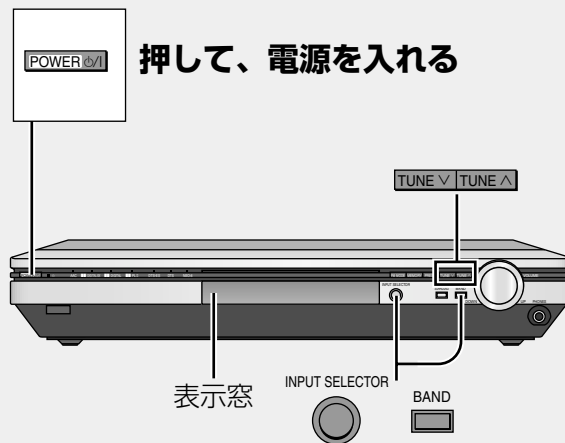


- つないだ後、実際に放送を受信してみて雑音の少ない位置に設置してください。
- よりよい音で受信するためには、屋外アンテナの利用をおすすめします (➡ 24 ページ)。

電源コードの接続

- 他の接続がすべて終わってから、最後にコンセントへ接続してください。
 - 電源プラグをコンセントに接続した状態で約 0.8 W の電力を消費しています。長期間使用しないときは抜いておいてください。
- ただし、電源プラグを抜いた状態で数週間そのままにしておくと、本機の各種設定は工場出荷時の状態に戻ります。そのときは再度設定を行ってください。

押して、電源を入れる



お知らせ

本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

デジタル入力端子の変更 D-INPUT

デジタル入力端子に接続した機器に合わせて、TV、DVD、CD のデジタル入力端子の設定を“光1” (OPT 1) か“光2” (OPT 2)、もしくは“同軸” (COAX) に変更します。

工場出荷時：TV：OPT 1 (光1)
DVD：OPT 2 (光2)
CD：COAX (同軸)

お知らせ

ひとつの入力に対して複数の端子を使用することはできません。例えば、工場出荷時の設定から、DVD のデジタル入力端子を“COAX”に設定した場合、DVD を光入力端子で使用することはできません。また、そのとき、CDは自動的に“OPT 2”になります。

- INPUT SELECTOR BAND 同時に押す

1 **SETUP**
- INPUT SELECTOR 押して、“D-INPUT”を選ぶ

2 **D-INPUT**

押すたびに
SPEAKERS → DISTANCE → FILTER
↑ DIMMER ← A/D ATT ← D-INPUT ← DR COMP ↓
- BAND 押して、デジタル入力端子に接続した機器を選ぶ

3 **TV → OPT 1**

押すたびに TV → DVD → CD
- TUNE ∇ TUNE ▲ 押して、デジタル入力端子を切り換える

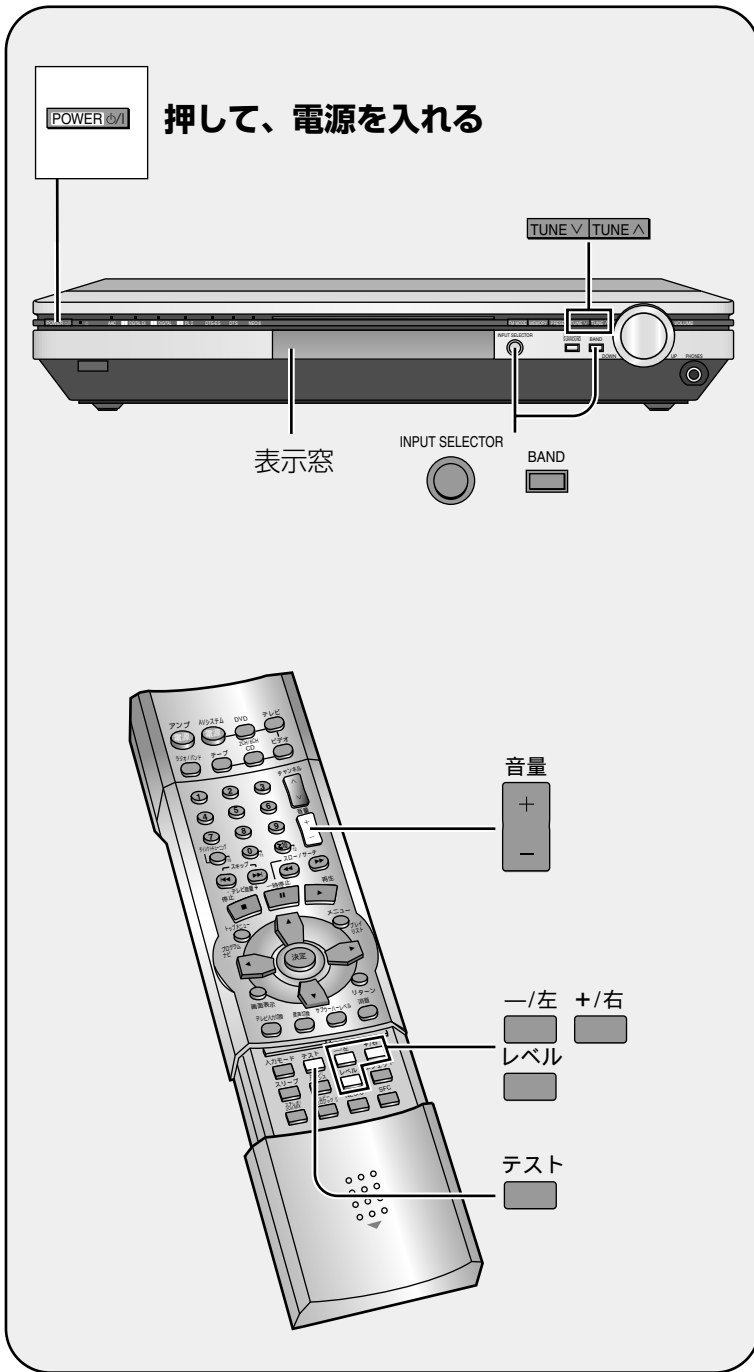
4 **OPT 1**

押すたびに OPT 1 ↔ OPT 2 ↔ COAX

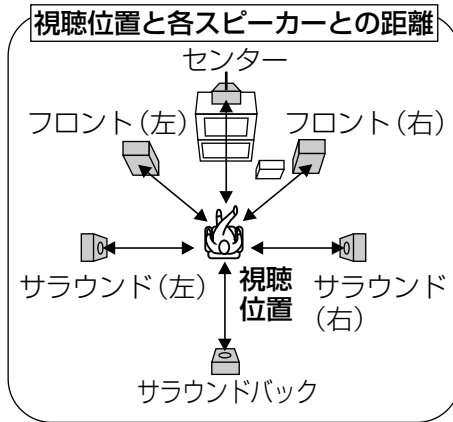
手順 3 と 4 を繰り返して、各入力端子の設定を変更する。

- INPUT SELECTOR BAND 同時に押して、設定を終了する

5 **COMPLETE**



接続したスピーカーの特性や設置位置に合わせて右記の、“SPEAKERS”、“DISTANCE”、“FILTER”、“出力レベルの調整”を行ってください。



お知らせ

- 本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。
- “SPEAKERS”の設定で“FRONT”を“SMALL”にした場合は、“SUB-WFR”は“YES”に、“SUB-WFR”を“NO”にした場合は、“FRONT”は“LARGE”に自動的に設定されます。

有無とサイズの設定 **SPEAKERS**

スピーカーにより、再生できる周波数帯域は異なります。特に低音域を不足することなく再生させるためにサイズの設定を行います。

- **FRONT/CENTER/SURROUND**
LARGE : 100 Hz 以下の低音域が十分に再生できるスピーカー
SMALL : 上記以外のスピーカー (工場出荷時)
NONE : センター/サラウンドスピーカーを接続していないとき
- **SUR BACK/SUB-WFR**
YES : 接続しているとき (工場出荷時)
NO : 接続していないとき

1 INPUT SELECTOR BAND **同時に押す**

SETUP

2 INPUT SELECTOR **押して、“SPEAKERS”を選ぶ**

SPEAKERS

押すたびに
SPEAKERS → DISTANCE → FILTER
↑ DIMMER ← A/D ATT ← D-INPUT ← DR COMP ↓

3 BAND **押して、スピーカーを選ぶ**

FRONT

押すたびに
FRONT → CENTER → SURROUND
↑ SUB-WFR ← SUR BACK ↓

4 TUNE V/TUNE ^ **押して、スピーカーの有無とサイズを選ぶ**

押すたびに **SMALL**

SMALL ↔ LARGE
または
NONE ↔ SMALL ↔ LARGE
または
NO ↔ YES

手順 3 と 4 を繰り返し、全てのスピーカーの有無とサイズを設定する

5 INPUT SELECTOR BAND **同時に押して、設定を終了する**

COMPLETE

距離の設定 DISTANCE

スピーカーの設置位置により、視聴位置に音が届くタイミングは異なります。本機では、フロント/センター/サラウンド/サラウンドバックスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、遅延時間(ディレイタイム)を自動的に算出し、このタイミングを補正します。各スピーカー 1.0 m から 10.0 m の間を 0.1 m 間隔で設定できます。

工場出荷時：FRONT/CENTER：3.0 m
SURROUND/SUR BACK：1.5 m

●あらかじめ各スピーカーと視聴位置との距離を測っておいてください。(➡ 左 ページ “視聴位置と各スピーカーとの距離” 参照)

1 INPUT SELECTOR BAND **同時に押す**
SETUP

2 INPUT SELECTOR **押して、“DISTANCE”を選ぶ**
DISTANCE
押すたびに
SPEAKERS → DISTANCE → FILTER
↑ DIMMER ← A/D ATT ← D-INPUT ← DR COMP ↓

3 BAND **押して、スピーカーを選ぶ**
FRONT
押すたびに
FRONT → CENTER → SURROUND
↑ SUR BACK ↓

4 TUNE ∇ / TUNE ▲ **押して、距離を設定する**
3.0 m
1.0 m ~ 10.0 m

手順 3 と 4 を繰り返し、フロント/センター/サラウンド/サラウンドバックスピーカーと視聴位置との距離を設定する

5 INPUT SELECTOR BAND **同時に押して、設定を終了する**
COMPLETE

低域フィルターの設定 FILTER

スピーカーのサイズ(➡ 左 ページ)を“SMALL”に設定した場合のみこの設定を行ってください。(FILTER の設定内容は“SMALL”にした全てのスピーカーに設定されます。スピーカーごとには設定しません。)

スピーカーが“SMALL”の場合は低音域を十分に再生することができません。そこで、接続するスピーカーの再生周波数帯域に応じて低域フィルターを設定し、不足している低域成分をサブウーハーに出力させます。

- 100：100 Hz 以下の低域成分をサブウーハーに出力させるとき(工場出荷時)
- 150：150 Hz 以下の低域成分をサブウーハーに出力させるとき
- 200：200 Hz 以下の低域成分をサブウーハーに出力させるとき

1 INPUT SELECTOR BAND **同時に押す**
SETUP

2 INPUT SELECTOR **押して、“FILTER”を選ぶ**
FILTER
押すたびに
SPEAKERS → DISTANCE → FILTER
↑ DIMMER ← A/D ATT ← D-INPUT ← DR COMP ↓

3 TUNE ∇ / TUNE ▲ **押して、低域フィルターの周波数を選ぶ**
100
100 ↔ 150 ↔ 200

4 INPUT SELECTOR BAND **同時に押して、設定を終了する**
COMPLETE

出力レベルの調整

視聴位置で、フロントスピーカーと各スピーカーからの音が同じ音量で聞こえるように調整します。

お知らせ

- “SPEAKERS”の設定(➡ 左 ページ)で“NONE”や“NO”に設定したスピーカーはスキップされます。
- 手順 3 と 4 でテスト信号は調整しているスピーカーからのみ出力されます。操作後約 4 秒経つと、再び各スピーカーから順に出力されます。

1 テスト **押して、テスト信号を出力させる**
TEST L
L → C → R → RS → SB → LS → SW
約 2 秒間隔で各スピーカーから下記の順に出力されます。
1. L：フロント(左) 5. SB：サラウンドバック
2. C：センター 6. LS：サラウンド(左)
3. R：フロント(右) 7. SW：サブウーハー
4. RS：サラウンド(右)

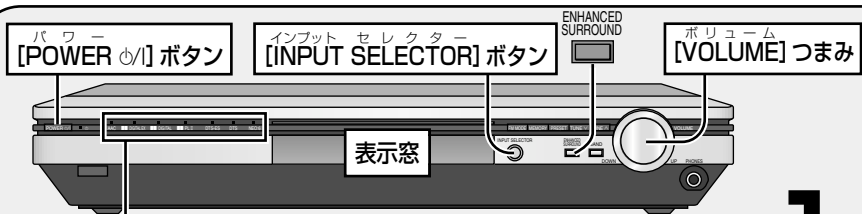
2 音量 **押して、フロントスピーカーの音量を通常聞く音量に調整する**

3 レベル **押して、調整するスピーカーを選ぶ**
C 0dB
押すたびに
C → RS → SB → LS → SW

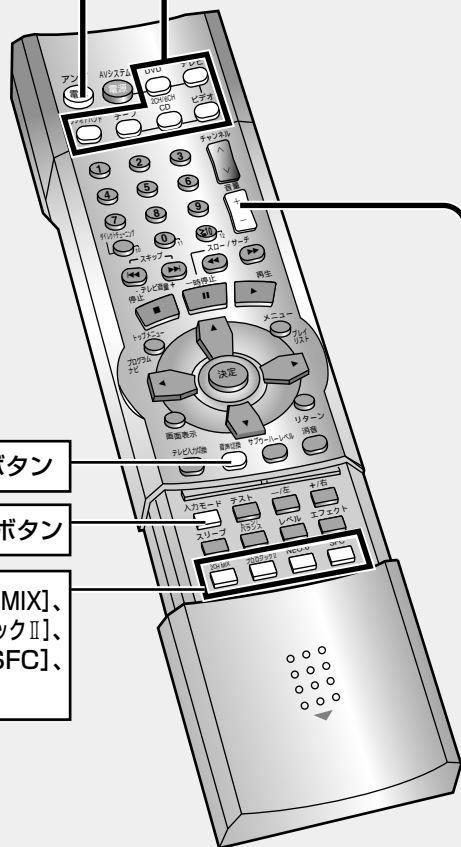
4 -/左 +/右 **押して、フロントスピーカーと同じ音量に聞こえるように調整する**
C +4dB
C/RS/SB/LS: -10 dB ~ +10 dB(工場出荷時: 0 dB)
SW: --(切) ↔ MIN(最小) ↔ 1 ~ 19 ↔ MAX(最大)(工場出荷時: 10)

手順 3 と 4 を繰り返し、各スピーカーとフロントスピーカーが同じ音量に聞こえるように調整する。

5 テスト **押して、テスト信号を止める**



マルチデコーダーランプ



1 電源を入れる

- 本体の [POWER ㊦] を押して、電源を入れることもできます。

2 入力ソースを選ぶ

- 本体の [INPUT SELECTOR] でも行えます。
- “DVD” に切り換えた後、再び [DVD] を押すと、DVD アナログ入力の 2CH/6CH を切り換えることができます。(DVD プレーヤーの出力設定も合わせて切り換えてください。)
- 本機は DVD やテレビなどのアナログ入力とデジタル入力を自動判別しますが、次の方法であらかじめ固定しておくこともできます。

DVD

[入力モード] を押して選ぶ

入力ソースごとに設定を記憶します。

AUTO

押すたびに AUTO → ANALOG
← DIGITAL ←

3 ソースを再生する

- 入力信号に応じたサウンドモードが選ばれ、ドルビーデジタルや DTS などの多チャンネルデジタル信号の場合は、自動的にサラウンドで再生されます。
- デジタル信号が入ったときや、デジタル入力モードに切り換えたときは、表示窓にデジタル入力表示が点灯します。(➡ 4 ページ)
- 多チャンネルのデジタル信号が入ったときはマルチデコーダーランプが点灯し、表示窓にプログラムフォーマットが表示されます。(➡ 4 ページ)
- 好みのサウンドモードで聞くには (➡ 右ページ)
- AAC 信号を入力しているときに、“DUAL” と表示されたら、二カ国語放送を受信中であることを表しています。このときリモコンの [音声切換] を押すたびに、“MAIN” (主)、“SUB” (副)、“MAIN+SUB” (主+副) を切り換えることができます。

4 音量を調整する

- 本体の [VOLUME] でも行えます。

VOL -40dB

-- dB (最小) ▲ 0 dB (最大)

再生を楽しんだ後は


音量を下げながら [電源、アンプ] (リモコン) か [POWER ㊦] (本体) を押して電源を切ってください。

サウンドモード

ステレオソースをサラウンドで聞くととき

 **DOLBY PRO LOGIC II モード**
ドルビーサラウンドのソースのみならず、他のステレオソースにも効果があります。

押すたびに切り換わる

 **NEO:6 モード**
ステレオソースを多チャンネルで楽しめます。

押すたびに切り換わる

 **SFC (Sound Field Control) モード**
アナログや PCM のステレオソースに好みの臨場感や広がり感を与えます。


押すたびに切り換わる

“DTS”ランプや“■ DIGITAL”ランプが点灯しているときは

- NEO:6 は“CINEMA”モード固定になります。
- SFC モードは選べません。


■ステレオ音声に戻すには
[ステレオ/2CH MIX] を押す。

サラウンドバックスピーカーを使って聞くととき

 **ENHANCED SURROUND モード**
サラウンドバックスピーカーを加えたサラウンド再生を行うことで、よりリアルな音場を作ります。
なお、ドルビーデジタルサラウンド EX、DTS-ES ソースの場合は、ボタンを押さなくても自動的に働くものがあります。

■解除するには
再度 [ENHANCED SURROUND] を押す。

多チャンネルソースを2チャンネルで聞くととき

 **2 CH MIX モード**
多チャンネルの信号を2チャンネルに集約し、左右のフロントスピーカーから出力します。

■多チャンネル音声に戻すには
再度 [ステレオ/2CH MIX] を押す。

MOVIE (ムービー)
ドルビーサラウンドで記録された映画ソフト (特にビデオテープ) で使用してください。

MUSIC (ミュージック)
ステレオ音楽ソースをサラウンドで再生します。

PANORAMA (パノラマ)
さらなる広がりによって音楽に包まれるような感覚が得られます。

CINEMA (シネマ)
映画ソフトで効果があります。

MUSIC (ミュージック)
ステレオ音楽ソースをサラウンドで再生します。

HALL (ホール)
大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がりがあります。

CLUB (クラブ)
ジャズクラブのような、天井が低く、音が反射しやすい硬い面で囲まれた狭い部屋をイメージしています。そのため演奏者がすぐ近くにいるような、臨場感のあるサウンドが得られます。

LIVE (ライブ)
ボーカルの声を際立たせることにより、ライブステージを聞いているような効果を出します。

THEATER (シアター)
映画の中の音源とその距離感がはっきりとし、また音の広がりがごく自然に再現されます。

SIM SURR (シミュレーテッドサラウンド)
サラウンドスピーカーから音が出ていないときやその音が小さい場合にこのモードをお試しください。広い空間で響いているような広がり感があります。またモノラルソースでも、サラウンドスピーカーから音を出すことで同様の効果を得られます。

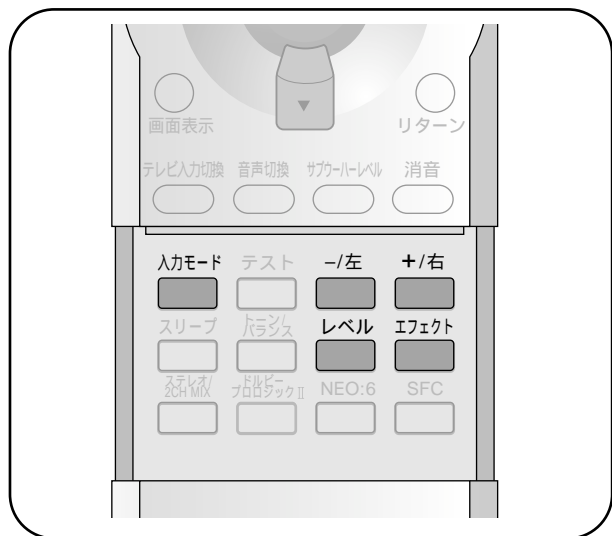
PARTY (パーティー)
パーティー会場などのような、どこにいてもステレオ音声を楽しめる音場を作り出します。

さらに細かい調整が行えます。くわしくは次ページをご覧ください。

A

B

C



本機で再生可能なデジタル信号

- AAC
- ドルビーデジタル (ドルビーデジタルサラウンド EX も含む)
- DTS (DTS-ES も含む)
- CD などの PCM 信号 (光 2 デジタル入力端子は 192 kHz まで、その他のデジタル入力端子は 96 kHz まで)

お知らせ

ドルビーデジタル RF 信号や、MPEG 音声信号は再生できません。

サウンドモードについてのお知らせ

- センターとサラウンドスピーカーを“NONE”に設定したときは、ドルビープロロジック II、NEO:6、SFC の各モードは使用できません。
- PCM 信号のサンプリング周波数が 48 kHz を越えるときは、ドルビープロロジック II、NEO:6、SFC の各モードは使用できません。
- ドルビーデジタルサラウンド EX や DTS-ES の信号を自動的に認識しないときは、本体の [ENHANCED SURROUND] を押してサラウンドバックチャンネルを有効にしてください。

A ドルビープロロジック II の調整

[MUSIC] および [PANORAMA] で行えます。

センター ウィドゥス コントロール
C-WIDTH (Center Width Control)

フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整することで、より自然な音楽再生ができます。0 (センターがはっきりする) から 7 (センターが広がる) の間で調整できます。工場出荷時は 3 です。

1 エフェクト 押して、“C-WIDTH”を選ぶ **C-WIDTH**

2 -/左 +/右 押して好みのサウンドを選ぶ

ディメンジョン コントロール
DIMEN (Dimension Control)

フロントとサラウンドスピーカーの出力バランスを調整できます。-3 (サラウンドが強くなる) から +3 (フロントが強くなる) の間で調整できます。工場出荷時は 0 です。

1 エフェクト 押して、“DIMEN”を選ぶ **DIMEN**

2 -/左 +/右 押して好みのサウンドを選ぶ

B NEO: 6 の調整

[MUSIC] で行えます。

センター イメージ コントロール
C-IMG (Center Image Control)

フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整することで、より自然な音楽再生ができます。0 (センターがはっきりする) から 5 (センターが広がる) の間で調整できます。工場出荷時は 3 です。

1 エフェクト 押して、“C-IMG”を選ぶ **C-IMG**

2 -/左 +/右 押して好みのサウンドを選ぶ

C SFC の調整

SFC のすべてのモードで行えます。
スピーカーごとに出力レベルとディレイタイムを調整して好みのサウンドを作ることができます。

出力レベルを調整するには

センター、サラウンド(左)、サラウンド(右)スピーカーでは、-10 dB ~ +10 dB の間で調整できます。
サブウーハーでは、--- (オフ)、MIN (最少)、1~19、MAX (最大) の間で調整できます。
その他のスピーカーは調整できません。

1 レベル **押して調整したいスピーカーを選ぶ。**

C 0dB

押すたびに C → RS → LS → SW

2 -/左 +/右 **押してレベルを選ぶ**

C +4dB

ディレイタイムを調整するには

サラウンドスピーカーのみ、10 ms ~ 100 ms の間 (10 ms 間隔) で調整できます。
工場出荷時は 50 ms です。

1 エフェクト **押す**

50mSEC

2 -/左 +/右 **押してディレイタイムを選ぶ**

PCM FIX と DTS FIX

PCM (音楽 CD など) あるいは DTS のデジタル信号のみを処理するように設定します。
正常に再生できる場合はこの設定を行う必要はありません。

PCM FIX : CD を再生したとき、曲の始まりが途切れる場合

DTS FIX : DTS ソースを再生しても、ソースが自動判別されず、DTS のマルチデコーダーランプ (➡ 4 ページ) が点灯しない場合

1 入力モード **入力ソースを選んだ状態で押して、“DIGITAL”を選ぶ**

DIGITAL

2 入力モード **約 4 秒押し続ける**
現在設定されているモードが点滅表示されます。
モードの点滅表示中にボタンを押して切り換えます。

押すたびに **AUTO**

AUTO → PCM FIX → DTS FIX

設定を解除する場合は“AUTO” (工場出荷時) を選択してください。

お知らせ

- PCM FIX のときは PCM 以外の、DTS FIX のときは DTS 以外のデジタル信号は処理されません。
- DTS FIX のときは ENHANCED SURROUND モードは使用できません。ただし DTS-ES は普通の DTS (サラウンドバックがない状態) で再生されます。
- ノイズが発生する場合は“AUTO”を選んでください。
- 本機の電源を切ると、“AUTO”の状態に戻ります。

AAC について

BS デジタル放送などに採用されている圧縮音声です。最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を再生できます。

ドルビー デジタル および ドルビー デジタル EX について

ドルビー研究所が開発したデジタルサラウンドシステムです。Dolby Digital EX では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。

ドルビー プロ ロジック Dolby Pro Logic II について

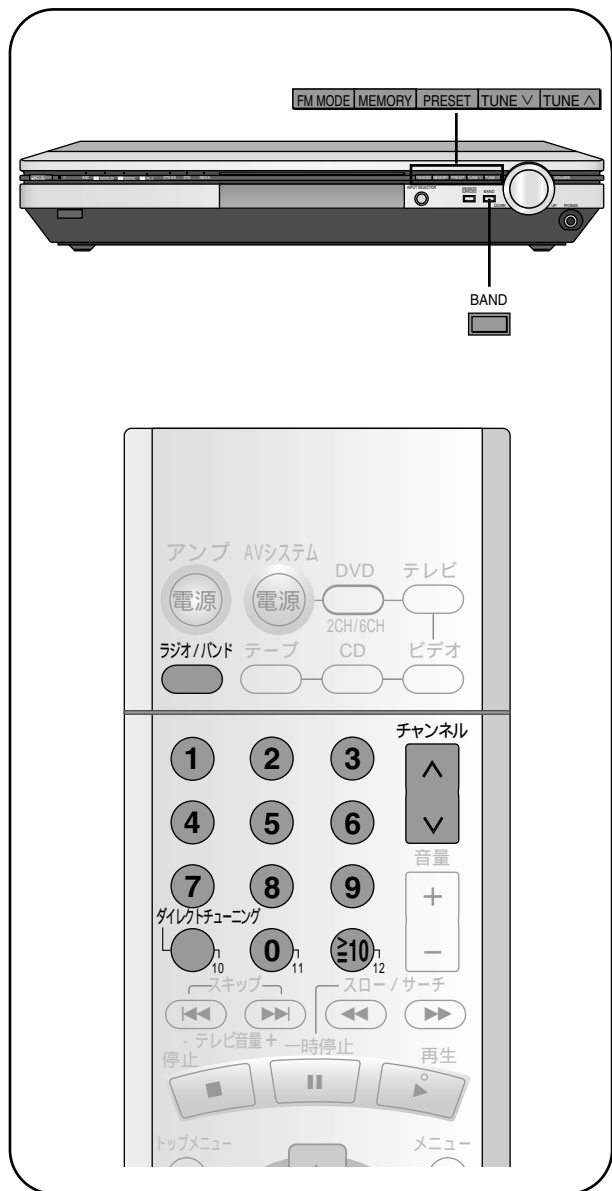
ドルビーサラウンドだけでなく、2 チャンネルのあらゆるソースをよりリアルな音場で再生するために開発されたデコードシステムです。サラウンドチャンネルをステレオ音声、フルレンジ (音声帯域が 20 Hz~20 kHz) で再生します。

DTS および DTS-ES について

DTS 社が開発したデジタルサラウンドシステムです。DTS-ES では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。

NEO:6 について

DTS 社が開発したサラウンドデコードシステムです。2チャンネルのステレオソースなどを、最大 6 チャンネルで再生します。



お知らせ

ラジオ受信中に DVD プレーヤーからノイズを拾うことがあります。そのときはDVDプレーヤーの電源を切るか、AM ループアンテナを本機とDVD プレーヤーからできるだけ離してください。

聞く

リモコンで操作する

数字ボタンを使って直接放送局を指定し、聞くことができます。

1 ラジオ/バンド **押して、“FM”または“AM”を選ぶ**

FM 76.0 MHz

押すたびに FM ↔ AM

2 ダイレクトチューニング **押す**

FM 88.1 MHz

カーソル

3

① ② ③ カーソルが点滅している
あいだに **押して、周波数を入力する**

④ ⑤ ⑥
⑦ ⑧ ⑨
⑩

例：88.1 MHz に合わせたいときは、
⑧ → ⑧ → ① を押す。

周波数が正しく入力されると、周波数が一度点滅し、その後、点灯状態になります。

お知らせ

受信できない周波数を入力すると“ERROR”表示が出ます。そのときは、もう一度入力し直してください。

本体で操作する

1 BAND **押して、“FM”または“AM”を選ぶ**

FM 76.0 MHz

押すたびに FM ↔ AM

2 TUNE ∇ TUNE ▲ **押して、好みの放送局を受信する**

TUNED ST FM 88.1 MHz

TUNED：正確に受信すると点灯
ST：FM ステレオ放送を受信すると点灯

■自動的に選局するには(オートチューニング)

TUNE ∇ TUNE ▲ **押し続け、周波数表示が変わり始めたら指を離す**

最初に受信した放送局で自動停止します。周囲に電波妨害があると、放送局を受信せずにオートチューニングが停止することがあります。

■FM ステレオ放送で雑音が多いときは

FM MODE **押して、FM モードを切り換える**

TUNED MONO FM 88.1 MHz

“ST”が消え、“MONO”が点灯します。放送はモノラル音声になりますが、雑音は減ります。ステレオ音声に戻すにはもう一度押ししてください。

放送局をメモリー(記憶)する

本機のプリセットチャンネルに周波数をメモリー(最大 30 局)し、簡単に受信できます。

- メモリーしたチャンネルに新しい周波数をメモリーすると、前の内容は消えます。

自動で記憶させる(オートメモリー)

受信できる放送局を低い周波数から順に探して、自動で記憶していきます。

■FM 局のみオートメモリーした場合

1~30 チャンネルに記憶されます。


■FM 局と AM 局をオートメモリーした場合

FM 局は 1~20、AM 局は 21~30 チャンネルに記憶されます。(必ず先に FM 局から行ってください。逆にすると AM 局のメモリーが消えてしまいます。)

●FM 局をオートメモリーする

1 FM を 76.0 MHz に合わせる
(→ 左 ページ)


2 **MEMORY** 押し続け、周波数表示が変わり始めたら指を離す

オートメモリーが始まり、“”が点滅します。途中でとめる場合は再び押ししてください。


●AM 局をオートメモリーする

1 AM を 522 kHz に合わせる
(→ 左 ページ)

2 **MEMORY** 押し続け、周波数表示が変わり始めたら指を離す

オートメモリーが始まり、“”が点滅します。途中でとめる場合は再び押ししてください。

■放送局が記憶されると

メモリーしたチャンネルと“”表示が約 1 秒間点灯します。

■オートメモリーが終了すると

最後に記憶された放送局の周波数が表示されます。

手動で記憶させる(マニュアルメモリー)

好みの放送局を好みのチャンネルにメモリーできます。

1 **TUNE** ↓ **TUNE** ↑ 押し、好みの放送局を受信する
FM 88.1 MHz

2 **MEMORY** 押す CH --<

3 **TUNE** ↓ **TUNE** ↑ 押し、メモリーするチャンネルを選ぶ
CH 2

4 **MEMORY** 押す CH 2
↓
FM 88.1 MHz

お知らせ

- 電波が弱い、あるいは強すぎるなどの理由で正確にオートメモリーできないことがあります。その場合はマニュアルメモリーを行ってください。
- 放送受信を“MONO”に設定した状態もメモリーできます(→ 左 ページ)。

メモリーした放送局を聞く

リモコンで選ぶ

① ② ③ 押し、チャンネルを入力する
CH 1
④ ⑤ ⑥
⑦ ⑧ ⑨
⑩ ≥ 10 ≥ 10
チャンネル 10 以上の選び方
例：10 ≥ 10 → ① → ⑩
25 ≥ 10 → ② → ⑤

(または)

チャンネル



押し、チャンネルを選ぶ

CH 1

本体で選ぶ

1 **PRESET** 押す CH --<
“CH --” もしくは現在聞いているチャンネルが表示されます。

2 **TUNE** ↓ **TUNE** ↑ 押し、チャンネルを選ぶ
CH 1
ボタンを押したままにすると、チャンネルを早送りできます。

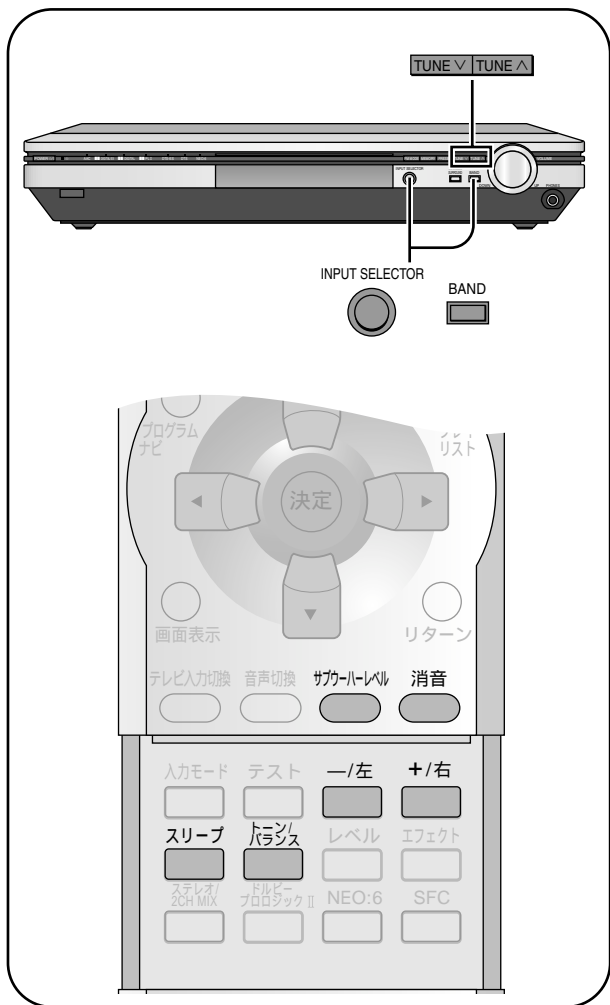
■聞いている放送局のチャンネルを確認するには

PRESET 押す

チャンネルが約 5 秒間表示されます。

お知らせ

受信中に FM モード(→ 左ページ)を切り換えた場合、あるいは上記以外の方法で放送局を受信した場合にはチャンネルは表示されません。



一時的に音を消す(ミュート)

消音 押す

MUTING ON

機能が働いている間、表示窓に“MUTING ON NOW”と繰り返し表示(スクロール)されます。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

お知らせ

電源を切ると、ミュートは解除されます。

サブウーハーレベルの調整

ソースを再生している間にサブウーハーの出力レベルを調整できます。重低音に物足りなさを感じたり、抑えて出力させたいなど、好みに合わせて調整できます。

サブウーハーレベル 押す

現在の設定が表示されます。

押すたびに SW 10
 --- (切) → MIN (最小) → 5 → 10
 MAX (最大) ← 15 ←

- 工場出荷時の設定は“SW 10”です。
- “---”を選んでしているとサブウーハーから音は出ません。

お知らせ

- サブウーハーレベルが高い状態で本機の音量を上げるとサブウーハーから出力される音がひずんで聞こえることがあります。この場合はサブウーハーレベルを下げてください。
- さらに細かく設定したいときは、「出力レベルの調整」(→ 13 ページ)を行ってください。

小音量でも聞きやすくする DR COMP

深夜など大きな音を出せない場合にこの設定を行ってください。音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすい音にします。この設定はダイナミックレンジの圧縮に対応したドルビーデジタルのソフトのみ有効です。

OFF：通常の再生(工場出荷時)

STANDARD：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル

MAX：深夜視聴を前提とした最大の圧縮

- INPUT SELECTOR BAND 同時に押す **SETUP**
- INPUT SELECTOR 押して、“DR COMP”を選ぶ **DR COMP**
 押すたびに
 SPEAKERS → DISTANCE → FILTER
 DIMMER ← A/D ATT ← D-INPUT ← DR COMP ↓
- TUNE ∇ TUNE ▲ 押して、圧縮レベルを選ぶ **OFF**
 OFF ↔ STANDARD ↔ MAX
- INPUT SELECTOR BAND 同時に押して、設定を終了する **COMPLETE**

アッテネーターの切り換え A/D ATT

アナログ入力で再生中、音がひずみ、表示窓に“OVERFLOW”が点灯した場合は“ON”にしてください。(アナログ入力の際のみ有効になります。)

- INPUT SELECTOR BAND 同時に押す **SETUP**
- INPUT SELECTOR 押して、“A/D ATT”を選ぶ **A/D ATT**
 押すたびに
 SPEAKERS → DISTANCE → FILTER
 DIMMER ← A/D ATT ← D-INPUT ← DR COMP ↓
- TUNE ∇ TUNE ▲ 押して、“ON”(入)を選ぶ **ON**
 OFF (工場出荷時) ↔ ON
 元に戻す場合は“OFF”(切)を選んでください。
- INPUT SELECTOR BAND 同時に押して、設定を終了する **COMPLETE**

便利な機能

音質と音量バランスの調整

音質 (BASS、TREBLE)

BASS (低音) と TREBLE (高音) を調整できます。アナログ入力 (DVD 6 CH以外) または PCM 信号でのみ行えます。

音量バランス (BALANCE)

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。

1 バランス 押して、“BASS”、“TREBLE”、または“BALANCE”を選ぶ

押すたびに **BASS**
BASS → TREBLE → BALANCE

BASS：低音を調整するとき
TREBLE：高音を調整するとき
BALANCE：バランスを調整するとき

2 -/左 +/右 押して調整する

BASS、TREBLE を調整するとき

0dB

-10 dB ~ +10 dB

BALANCE を調整するとき

L 0 R

バー (センター位置)

バーの位置はボタンを数回押すと変わります。(表示はあくまでも目安です。)
L：音量バランスを左フロントスピーカー側に移すとき
R：音量バランスを右フロントスピーカー側に移すとき

スリープタイマー

就寝時など、自動的に電源が切れるように時間を設定します。

30、60、90、120 分の設定ができます。

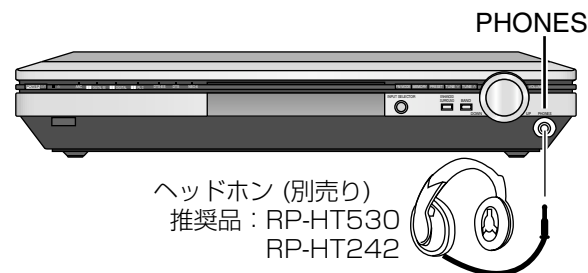
1 スリープ 押す **SLEEP 30**
押すたびに SLEEP ↔ OFF
解除する場合は“OFF”を選んでください。

2 -/左 +/右 押して、時間を設定する **SLEEP 30**
30 ↔ 60 ↔ 90 ↔ 120

■残り時間を調べたいとき

スリープ 押す
約 5 秒間表示されます。

ヘッドホン



1 音量を下げ、ヘッドホンを接続する
プラグタイプ：ステレオ大型 (M6)

2 音量を調整する

お知らせ

- ヘッドホンを接続すると自動的にステレオ再生になります。サウンドモードは選べません。
- 耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。

表示窓を暗くし、ライトを消す DIMMER

部屋を暗くして、映画を見るときなどに便利です。“ON”にすると表示窓が暗くなり、表示窓の上のライトが消えます。

1 INPUT SELECTOR BAND 同時に押す **SETUP**

2 INPUT SELECTOR 押して、“DIMMER”を選ぶ **DIMMER**
押すたびに
SPEAKERS → DISTANCE → FILTER
↑ DIMMER ← A/D ATT ← D-INPUT ← DR COMP ↓

3 TUNE ∇ TUNE ▲ 押して、“ON” (入) を選ぶ **ON**
OFF (工場出荷時) ↔ ON
元に戻す場合は“OFF” (切) を選んでください。

4 INPUT SELECTOR BAND 同時に押して、設定を終了する **COMPLETE**

音のエチケット

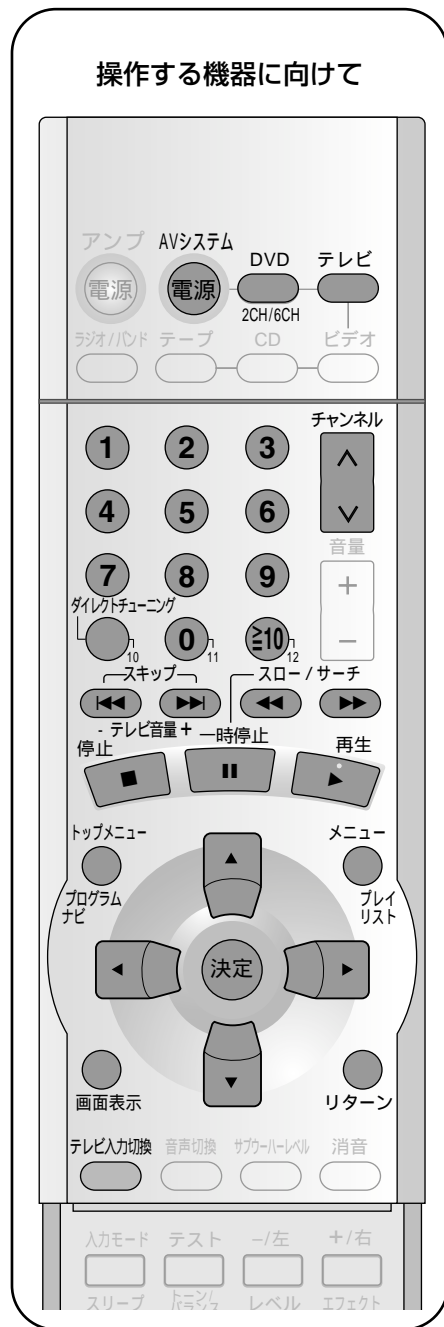
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

リモコンでテレビや DVD など进行操作する

本機その他、**当社製**のテレビ、DVD プレーヤー、ビデオデッキ、CD プレーヤー、およびカセットデッキを本機のリモコンで操作できます。(ただし操作できない機種もあります。) 各操作についてくわしくは、それぞれの機器の説明書をご覧ください。



テレビ	
本機の入力を“TV”に切り換える/リモコンをテレビ操作モードに切り換える	テレビ テレビ操作の前に必ず行ってください。
テレビの電源を入/切する	AVシステム
テレビのテレビ/ビデオ入力を切り換える	テレビ入力切換
チャンネルを選ぶ	(順に選ぶとき) チャンネル (直接選ぶとき)
テレビの音量を調整する	スキップ - テレビ音量 +

DVD プレーヤー	
本機の入力を“DVD”に切り換える/リモコンをDVDプレーヤー操作モードに切り換える	DVD 2CH/6CH DVD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
DVD プレーヤーの電源を入/切する	AVシステム
トラックやチャプターを飛び越す(スキップ)	スキップ - テレビ音量 +
見たい場所を探す(サーチ)	スロー/サーチ
再生を始める	再生
トップメニュー(またはプログラムナビ)を表示する	トップメニュー プログラムナビ
メニュー(またはプレイリスト)を表示する	メニュー プレイリスト
画面表示(GUI)を表示する	画面表示
前の画面に戻る	リターン

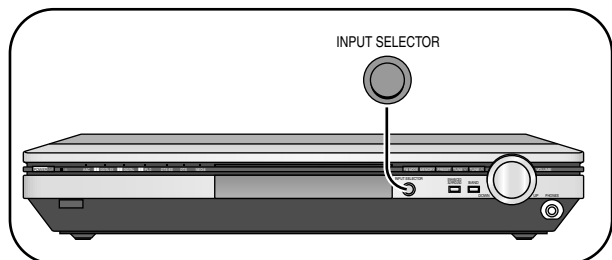
項目を選ぶ [トップメニュー]、[メニュー]や[画面表示]を押した後に操作してください。	
選んだ項目を実行する	決定
トラックやチャプターを直接選ぶ	 例: 1 例: 10 → →
一時停止する	一時停止
スロー再生する	一時停止 ↓ スロー/サーチ
コマ戻し/コマ送りする	一時停止 ↓
再生を停止する	停止

操作する機器に向けて



ビデオデッキ		CD プレーヤー		カセットデッキ	
本機の入力を“VCR”に切り換える/リモコンをビデオデッキ操作モードに切り換える	ビデオ 	本機の入力を“CD”に切り換える/リモコンをCD プレーヤー操作モードに切り換える	CD CD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。	本機の入力を“TAPE”に切り換える/リモコンをカセットデッキ操作モードに切り換える	テープ カセットデッキ操作の前に必ず行ってください。
ビデオデッキの電源を入/切する	AVシステム 	CD プレーヤーの電源を入/切する	AVシステム 	カセットデッキの電源を入/切する	AVシステム
チャンネルを選ぶ	(順に選ぶとき) チャンネル (直接選ぶとき) 例: 10 	再生を始める	再生 	再生を始める	再生
再生を始める	再生 	トラックを直接選ぶ	 例: 1 例: 10 	巻き戻し/早送りをする	スロー/サーチ
巻き戻し/早送りをする	スロー/サーチ 	トラックを飛び越す(スキップ)	スキップ 	一時停止する	一時停止
一時停止する	一時停止 	早戻し/早送りを する	スロー/サーチ 	再生を停止する	停止
一時停止する	一時停止 	一時停止する	一時停止 		
再生を停止する	停止 	再生を停止する	停止 		

- 本機の“ビデオデッキ”端子に接続したビデオデッキに録音・録画できます。(➡ 10 ページ)
 - 本機の“テープ”端子に接続したカセットデッキに録音できます。(➡ 10 ページ)
 - 本機の“デジタル”(出力)端子に接続したMDデッキなどに録音できます。(➡ 10 ページ)
- 録音、録画、再生機器の説明書もご覧ください。



- 1** INPUT SELECTOR 押して、録音・録画するソースを選ぶ
- 2** 録音・録画を始める
- 3** 録音・録画するソースの再生を始める

お知らせ

- “テープ”端子から入力した音声を“テープ”端子へ出力することはできません。“ビデオデッキ”端子も同様です。
- デジタル信号を“テープ”端子や“ビデオデッキ”端子へ出力することはできません。またアナログ信号を“デジタル”(出力)端子へ出力することもできません。
- デジタル録音を禁止したソースの場合は、アナログ端子に接続の上、アナログ入力を選んでください。(➡ 14 ページ)
- DVDでアナログ(6CH)入力を選んだ場合は、フロント 2 CH の音声しか録音できません。
- コピーガードされた DVD などはビデオデッキに録画できません。

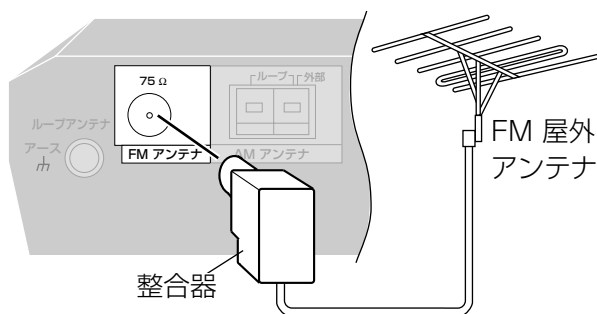
山間部や鉄筋コンクリート建てのビルの中などで、電波を受信しにくい場合は、屋外アンテナを接続してください。

FM 屋外アンテナの利用

アンテナ線(同軸ケーブル)を整合器(市販)に取り付けて、後面に接続します。
付属の FM アンテナは外してください。

■ 整合器の接続

本体後面



お知らせ

分配器でテレビのアンテナと本機に接続する FM 屋外アンテナを共用すると、テレビ画面の乱れの原因になる場合があります。

■ アンプ部

実用最大定格(サラウンドモード 各 ch 動作時)	
フロント(L/R)	100 W + 100 W (6 Ω, JEITA)
センター	100 W (6 Ω, JEITA)
サラウンド(L/R)	100 W + 100 W (6 Ω, JEITA)
サラウンド(BACK)	100 W (6 Ω, JEITA)
定格出力(サラウンドモード 各 ch 動作時)	
フロント(L/R)	70 W + 70 W (1 kHz 6 Ω 0.3 %)
センター	70 W (1 kHz 6 Ω 0.3 %)
サラウンド(L/R)	70 W + 70 W (1 kHz 6 Ω 0.3 %)
サラウンド(BACK)	70 W (1 kHz 6 Ω 0.3 %)
実用最大定格(ステレオ時)	100 W + 100 W (6 Ω, JEITA)
定格出力(ステレオ時)	70 W + 70 W (20 Hz ~ 20 kHz 6 Ω 0.3 %)
全高調波ひずみ率	
20 Hz ~ 20 kHz 定格出力	0.3 % (6 Ω)
負荷インピーダンス	
フロント(L/R)	6 ~ 16 Ω
センター	6 ~ 16 Ω
サラウンド(L/R)	6 ~ 16 Ω
サラウンド(BACK)	6 ~ 16 Ω
周波数特性	
CD, TV, DVD/DVD 6CH, VCR, TAPE	10 Hz ~ 44 kHz, ±3 dB
入力感度/入力インピーダンス	
CD, TV, DVD/DVD 6CH, VCR, TAPE	200 mV/22 kΩ
信号対雑音比(S/N 比)	
DVD, TV (DIGITAL INPUT)	98 dB
トーンコントロール特性	
低音	50 Hz, +10 ~ -10 dB
高音	20 kHz, +10 ~ -10 dB
定格出力電圧	
テープ出力(TAPE OUT)	200 mV
ビデオデッキ出力(VCR OUT)	200 mV

デジタル入力(光)	2
(同軸)	1
デジタル出力(光)	1

■ FM チューナー部

受信周波数帯	76.0 ~ 90.0 MHz
実用感度	16.3 dBf (3.6 μV, IHF '58)
全高調波ひずみ率	
MONO	0.3 %
STEREO	0.5 %
ステレオセパレーション	
1 kHz	35 dB
アンテナ端子	75 Ω (不平衡型)

■ AM チューナー部

受信周波数帯	522 ~ 1629 kHz
実用感度	20 μV, 600 μV/m

■ 映像部

出力電圧(1 V 入力時)	1 ± 0.1 Vp-p
最大入力電圧	1.5 Vp-p
入出力インピーダンス(アンバランス)	75 Ω

■ 総合

電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	240 W
寸法(幅×高さ×奥行)	430 × 74 × 375 mm
質量	約 4 kg

電源スタンバイ時の消費電力	約 0.8 W
---------------	---------

注)

1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる 10 次高波までの総和です。

高調波ガイドライン適合品

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

なお、これらの処理をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

こんなときは	ここを確認・処置してください	参照ページ
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。 	10
機器の再生を始めても音や映像が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> 入力ソースを正しく選択してください。 	14
	<ul style="list-style-type: none"> 消音を解除してください。 	20
	<ul style="list-style-type: none"> 本機で再生できるデジタル信号が確認してください。 	16
	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 	6~11
	<ul style="list-style-type: none"> デジタル入力端子の設定を確認してください。 	11
音が出なくなつた。 ("OVERLOAD" または "FAN LOCK" が約 1 秒間表示される。) 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて電源を自動的に切ります。	<ul style="list-style-type: none"> PCM FIX モードまたは DTS FIX モードを解除してください。 	17
	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーコードの ⊕ と ⊖ がショートしていませんか。 	7
	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーインピーダンスが本機の許容範囲より低くないですか。 	7
	<ul style="list-style-type: none"> 著しい大音量で聞いていませんか。 異常に暑い場所で使用していませんか。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> 冷却ファンに異物をはさまっていませんか。 <p>→ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。(保護回路が解除されます。)(それでも同じ現象が起る場合は販売店にご相談ください。)</p>	-
表示窓に "F76" が点灯し、電源が切れる。	<ul style="list-style-type: none"> 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。 	-
リモコンが働かない。	<ul style="list-style-type: none"> 電池が消耗している場合は電池を交換してください。 	6

共通

こんなときは	ここを確認・処置してください	参照ページ
サウンドモード	<ul style="list-style-type: none"> SPEAKERS の設定で、"NO" や "NONE" 以外の適切なサイズを選んでください。 	12
	<ul style="list-style-type: none"> サウンドモードを確かめ、適切なモードを選んでください。 	15
	<ul style="list-style-type: none"> 2CH MIX をオフにしてください。 	15
	<ul style="list-style-type: none"> SPEAKERS の "SUR BACK" 設定で、"YES" をを選んでください。 	12
	<ul style="list-style-type: none"> [ENHANCED SURROUND] を押してください。 	15
サラウンドバックスピーカーから音が聞こえない。	<ul style="list-style-type: none"> SPEAKERS の "SUR BACK" 設定で、"YES" をを選んでください。 [ENHANCED SURROUND] を押してください。 	12 15
ドルビープロロジックⅡや NEO:6, SFC が使えない	<ul style="list-style-type: none"> DVD の入力をアナログ (2 CH) に切り換えてください。 48 kHz を越えるサンプリング周波数のときは使用できません。 	14 16
BSデジタル放送でニカ国語放送の切り換えができない	<ul style="list-style-type: none"> BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。 	-
ラジオ	<ul style="list-style-type: none"> アンテナの向きや位置を変えてみてください。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> [トーン/バランス] で高音を絞ってみてください。 	21
	<ul style="list-style-type: none"> 本機、DVD プレーヤー、テレビやビデオデッキから AM ループアンテナを離してください。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> 屋外アンテナに替えてみてください。 アンテナと他のコードを遠ざけてください。 	24 -
	<ul style="list-style-type: none"> AM 放送の場合は、アッテネーターを切り換えてみてください。音量が変わりますが、雑音が減る場合があります。 	20

サウンドモード

ラジオ

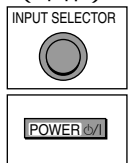
ご参考

Q (質問)	A (回答)
マイクを接続したい。	本機には接続できません。
DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。(➡ 9、14 ページ)
● DTS の音声が出ない。 ● 音声は出るが DTS のマルチデコーダーランプが点灯しない。	DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定を確かめてください。
48 kHz を超えるサンプリング周波数のDVDを再生しても音が出ない。	著作権保護の理由などでデジタル接続では音声が出ないディスクがあります。アナログ接続してください。
長時間使用すると、本体が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。ただし、冷却ファンと壁などの間を近づけすぎたり、物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に係なく使えます。

工場出荷時の状態に戻すには

メモリーしたラジオのチャンネル(➡ 19 ページ)を除くすべての設定を工場出荷時の状態に戻します。再度設定を行ってください。

(本体)



(電源が入った状態で)

押しながら

押す

表示窓に“RESET”が表示されます。

修理・お取り扱い・お手入れ

などのご相談は...

まず、お買い上げの販売店へ

お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は...

修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！

その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

保証書 (別添付)

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

補修用性能部品の保有期間

当社は、AV コントロールアンプの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。注)補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル/パナソニック
お客様ご相談センター

365日 / 受付9時~20時

電話 フリーダイヤル ☎ **0120-878-365**

携帯電話・PHSでのご利用は... **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル ☎ **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan

〈外国人/海外仕様商品(ツーリスト商品他)等〉
ご相談窓口

Tokyo (03)3256-5444 Osaka (06)6645-8787

Open: 9:00 - 17:30

(closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

修理を依頼されるとき

25 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

品名	AV コントロールアンプ
品番	SA-XR25
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

修理に関するご相談

ナショナル/パナソニック
修理ご相談窓口

ナビダイヤル(全国共通番号)

 **0570-087-087**

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口にご連絡ください。

ナショナル/パナソニック 修理ご相談窓口

北海道地区

札幌 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎(011)894-1251	帯広 帯広市西19条南1丁目7-11 ☎(0155)33-8477
旭川 旭川市2条通2丁目左1号 ☎(0166)31-6151	函館 函館市西桔梗589番地241(函館流通卸センター内) ☎(0138)48-6631

東北地区

青森 青森市第二問屋町3-7-10 ☎(017)739-9712	宮城 仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117
秋田 秋田市御所野湯本2丁目1-2 ☎(018)826-1600	山形 山形市流通センター3丁目12-2 ☎(023)641-8100
岩手 盛岡市羽場13地割30-3 ☎(019)639-5120	福島 福島県安達郡本宮町字南ノ内65 ☎(0243)34-1301

ナショナル/パナソニック 修理ご相談窓口

首都圏地区

栃木 宇都宮市御幸町194-20 ☎(028)689-2555	千葉 千葉市中央区星久喜町172 ☎(043)208-6011
群馬 高崎市大沢町229-1 ☎(027)352-1109	東京 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780
水戸 水戸市柳河町309-2 ☎(029)225-0249	山梨 甲府市宝1丁目4-13 ☎(055)222-5171
つくば つくば市花畑2丁目8-1 ☎(0298)64-8756	神奈川 横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)847-9720
埼玉 桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960	新潟 新潟市東明1丁目8-14 ☎(025)286-0171

中国地区

鳥取 鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695	岡山 岡山県都窪郡早島町矢尾807 ☎(086)292-1162
米子 米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129	広島 広島市西区南観音8丁目13-20 ☎(082)295-5011
松江 松江市平成町182番地14 ☎(0852)23-1128	山口 山口市鑄銭司字鑄銭司団地北447-23 ☎(083)986-4050
出雲 出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133	浜田 浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629

中部地区

石川 石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80 ☎(076)294-2683	名古屋 名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎(052)819-0225
富山 富山市寺島1298 ☎(076)432-8705	岡崎 岡崎市岡町南久保28 ☎(0564)55-5719
福井 福井市開発4丁目112 ☎(0776)54-5606	岐阜 岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30 ☎(058)323-6010
長野 松本市大字笹賀7600-7 ☎(0263)86-9209	高山 高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
静岡 静岡市西島765 ☎(054)287-9000	三重 久居市森町字北谷1920-3 ☎(059)255-1380

近畿地区

滋賀 守山市勝部6丁目2-1 ☎(077)582-5021	奈良 大和郡山市椎木町404-2 ☎(0743)59-2770
京都 京都市伏見区竹田中原町71-4 ☎(075)672-9636	和歌山 和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
大阪 大阪市北区本庄西1丁目1-7 ☎(06)6359-6225	兵庫 神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6 ☎(078)272-6645

九州地区

福岡 春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036	熊本 熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067
佐賀 佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044 ☎(0952)26-9151	大分 大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815
長崎 長崎市東町1949-1 ☎(095)830-1658	宮崎 宮崎市本郷北方字草葉2099-2 ☎(0985)63-1213
鹿児島 鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657	大島 名瀬市長浜町10-1 ☎(0997)53-5101

沖縄地区

沖縄 浦添市城間4丁目23-11 ☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0103

ア

アンテナ	11, 24
オートチューニング	18
オートメモリー	19
音質	21
音量バランス	21

カ

カセットデッキ	10, 23
コンポーネント映像端子	8, 9

サ

サウンドモード	15
サブウーハーレベル	20
出力レベル調整	13, 17
スピーカー	6, 7
スリープタイマー	21

タ

ディレイタイム	13, 17
デジタル信号	16
テレビ	8, 22
同軸端子	10
ドルビーデジタル	15, 17
ドルビーデジタルEX	17
ドルビープロロジック II	15, 17

ハ

光端子	9, 10
ビデオデッキ	10, 23
ヘッドホン	21

マ

マニュアルメモリー	19
ミュート	20

ラ

ラジオ	18
リモコン	5, 6, 22

数字/アルファベット

2CH MIX	15
AAC	14, 17
A/D ATT(アッテネーター)	20
BSチューナー	10
CDプレーヤー	10, 23
CINEMA(シネマ)	15
CLUB(クラブ)	15
D-INPUT設定	11
DIMMER(ディマー)	21
DISTANCE設定	13
DR COMP	20
DTS	15, 17
DTS-ES	15, 17
DTS FIX	17
DVDプレーヤー	9, 22
ENHANCED SURROUND(エンハンスドサラウンド)	15
FILTER設定	13
FMモード	18
HALL(ホール)	15
LIVE(ライブ)	15
MDデッキ	10
MOVIE(ムービー)	15
MUSIC(ミュージック)	15
NEO:6	15, 17
PANORAMA(パノラマ)	15
PARTY(パーティー)	15
PCM	16
PCM FIX	17
S映像端子	8, 9, 10
SFC	15
SIM SURR(シミュレーテッドサラウンド)	15
SPEAKERS設定	12
THEATER(シアター)	15

柔らかい布でふいてください。

ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤(中性)を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

「Dolby」, 「ドルビー」, 「Pro Logic」及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

この製品は米国 DTS 社からの実施権に基づき製造されています。合衆国特許 No.5,451,942, 5,956,674, 5,974,380, 5,978,762。海外特許申請中。

「DTS」, 「DTS-ES Extended Surround」および「Neo:6」は DTS 社の商標です。著作権1996年、2000年 DTS 社。不許複製。

愛情点検 長年ご使用の AV コントロールアンプの点検を!



こんな症状はありませんか

- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 音が出ないことがある
- 正常に動作しないことがある
- 商品に破損した部分がある
- その他の異常や故障がある

このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

お買い上げ日	年 月 日
品番	SA-XR25
販売店名	☎ () -
お客様ご相談窓口	☎ () -

松下電器産業株式会社 ネットワーク事業グループ

〒571-8505 大阪府門真市松生町1番4号

© Matsushita Electric Industrial Co., Ltd. (松下電器産業株式会社) 2003

RQT6911-1S

H0203HM1033